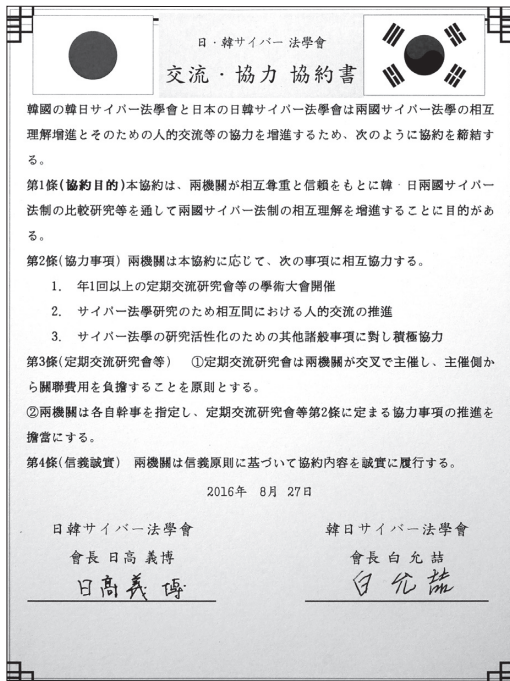


第10回日韓サイバー法学会国際学術大会の開催に寄せて

専修大学総長 日高 義博

1 第10回日韓サイバー法学会国際学術大会が令和5年8月26日に専修大学神田校舎7号館731教室において開催された。今回の国際学術大会のテーマは、「複雑化する現代社会における刑事法の課題」であった。開催に際して、専修大学今村法律研究室には、共同主催という形で協力していただき、日韓の研究者・実務家等からなる国際学術大会を無事終了することができた。コロナ感染が収束したとはいええない状況の下での国際学術大会であったが、コロナ感染防止に配慮しながら、熱心な討議がなされ、比較法的視点からも多くの知見を得ることができた。国際学術大会の実施に尽力された関係各位に対し、会長として、厚くお礼を申し上げ、感謝の意を表する次第である。

2 日韓サイバー法学会を立ち上げたのは、2013年であった。当時、犯罪分析の視点がコンピュータ犯罪からサイバー犯罪へと移行しつつあった。韓国では、既に義務教育においてもパソコンが普及し、様々な業務においてコンピュータによる情報管理がなされていたが、反面、犯罪状況は、サイバー犯罪という視点から問題を捉え、防止策を講じることが求められていた。日本の場合、義務教育の現場までパソコンが普及する状況ではなかったが、コンピュータによる情報管理が各種の業務において進められていたことから、韓国の犯罪状況に近づくことが予測された。そんな中、親交のあった韓国の白允喆教授（当時：韓国コンピュータ法学会会長、大邱サイバー大学教授）から、サイバー犯罪について日韓の研究者・実務家等からなる研究会を立ち上げ、比較法的視点に立って理論と実務の架け橋を構築したい旨の話があり、意気投合して日韓サイバー法学会の設立に至った。学会開催までに時間的余裕がなかったこともあり、ボランティア精神を基本として、白允喆教授、楊萬植教授（檀國大学教授）、朴寅東弁護士、日高（当時：専修大学理事長・専修大学法科大学院教授）、藤岡一郎教授（当時：京都産業大学学長）、松木健一理事（当時：専修大学専務理事）

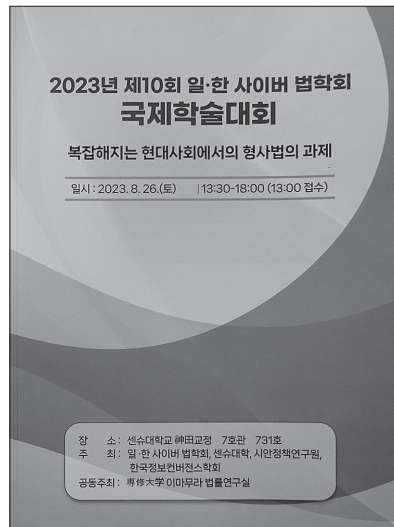
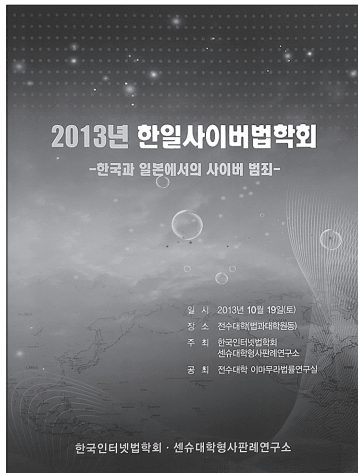


(写真1)

能な楊萬植教授と朴寅東弁護士が相互の連絡・調整役を担うこととなった。2013年にスタートした日韓サイバー法学会の学術交流は順調に軌道に乗ったが、日本と韓国のサイバー法学会の交流をより促進するために、2016年には、ソウルにおいて「日・韓サイバー法学会交流・協力協約書」(写真1)を締結した。2013年の学会発足以来、11年の間、心をつなげた信義のある学会運営・学術交流がなされ、現在、若手の研究者・実務家も参画しうる先端の学術交流の場になっている。もっとも、この間、コロナ禍にあって2020年度の国際学術大会は、開催を中止せざるをえなかったが、2021年度および2022年度は、ズームによるオンライン学会に切り替えて、国際学術大会の開催を継続することができた。そして、今年ようやく対面の国際学術大会を専修大学において開催することができ、日韓のメンバーが一堂に会することができた。国際学術大会で討議しているメンバーの表情は喜びに満ちていた。会場での意思疎通は、日本語、韓国語、英語、ドイツ語、漢文の多言語によるが、長年交流していると心の通じるコミュニケーションができて、研究の成果も上がってきており、嬉しい限りである。まさに、「継続は力なり」である。

が設立メンバーとなり、専修大学刑事判例研究会の助力を得て、2013年10月19日に第1回サイバー法学会を専修大学神田校舎8号館において開催することができた。

3 国際学術大会の開催は、1年に1回、日本と韓国で交互に開催することにし、日本で開催する場合には「日韓サイバー法学会」、韓国で開催する場合には「韓日サイバー法学会」という名称を用いることにした。日韓サイバー法学会の会長は日高が、韓日サイバー法学会の会長は白允喆教授が務めることにし、日本語に堪



(写真2)

4 第1回から第10回までの国際学術大会のメインテーマおよび主題の発表内容は、以下のようなものである。主題の発表においては、発表者のテーマに応じて、日本側および韓国側から数名のコメンテーターを置き、比較法的観点からの議論が深掘りされるような工夫がなされた。討議の時間が限られていることから、学術大会での発表論旨等を日本語および韓国語の二カ国に翻訳した国際学術大会論旨等集(写真2)を事前に作成し、論旨の理解を深めるようにした。なお、オンライン学会となった第8回および第9回の国際学術大会の論旨等集については、小冊子が作成されていないが、森住信人准教授が今村法律研究室報76号(19頁～34頁)および77号(14頁～20頁)に国際学術大会の内容を紹介されている。学術大会の内容を記録に残すことができ幸いであった。国際学術大会の開催に当っては、論旨等集の翻訳および討論での通訳統括は、日本の法律にも精通している楊萬植教授が毎回精力的に取り組まれた。心から感謝の意を表する次第である。

第1回 2013年日韓サイバー法学会学術大会

[東京：専修大学神田校舎8号館821教室]

メインテーマ 韓国と日本におけるサイバー犯罪の現状について

- 第1主題「韓国におけるサイバー犯罪とその対策」

発表者：白允喆教授（韓国インターネット法学会副会長）

- 第2主題「韓国における個人情報法制の現況と課題」

発表者：金鐵容教授（建国大学法学専門大学院）

- 第3主題「インターネット上の有害物規制に関する法的研究」

発表者：蔡羽奭教授（崇實大学法科大学）

- 第4主題「ネット上の虚偽の犯行予告と警察に対する偽計業務妨害罪」

発表者：稲垣悠一弁護士（専修大学法学部非常勤講師）

- 第5主題「日本における不正アクセス禁止法違反の現状と課題」

発表者：岡田好史准教授（専修大学法学部）

第2回 2014年韓日サイバー法学会国際学術大会

[ソウル：東国大学法科大学模擬法廷]

メインテーマ サイバー上において発生する法的争点を中心として

- 第1主題「表現の自由と淫乱物の限界」

発表者：金浹謙教授（東国大学法科大学）

- 第2主題「日本におけるインターネット上での表現行為に対する名誉毀損罪の対応」

発表者：岡田好史教授（専修大学法学部）

- 第3主題「インターネット網の中立性に対する公法的考察」

発表者：康鉉浩教授（成均館大学）

- 第4主題「ネットワークにおけるわいせつ画像『陳列』の意義」

発表者：森住信人准教授（専修大学法学部）

- 第5主題「オンライン上における個人情報の公開と刑事処罰の限界」

発表者：李政勲教授（中央大学法学専門大学院）

第3回 2015年日韓サイバー法学会国際学術大会

[京都：京都産業大学むささび館]

メインテーマ サイバー犯罪に対する法的対応

- 第1主題「デジタル証拠に関する研究—SNS押収・検索の問題点—」

発表者：崔鎬雄弁護士

- 第2主題「刑事事件におけるデジタル・フォレンジックと証拠」

発表者：安富潔教授（京都産業大学法学部）

- 第3主題「韓国におけるオンライン著作権の動向とその保護法制」

発表者：金周範弁護士

- 第4主題「韓国におけるハッキングに対する法的対応—電子的侵害を中心として—」

発表者：李準馥教授（西京大学）＝白允喆教授（施安政策研究院長）

- 第5主題「サイバー空間における犯罪対策と追跡可能性」

発表者：成田秀樹教授（京都産業大学法学部）

第4回 2016年韓日サイバー法学会国際学術大会

[ソウル：東国大学法科大学模擬法廷]

メインテーマ 最近の韓日におけるサイバー法学の動向

- 第1主題「日本における淫乱物（猥褻物）の概念と判断基準」

発表者：杉山博亮弁護士（専修大学法科大学院客員教授）

- 第2主題「韓国における淫乱物の概念と判断基準」

発表者：崔鎬雄弁護士

- 第3主題「日本刑事訴訟法の2011年改正の概要—サイバー関係の手続法の整備について—」

発表者：氏家仁（日本比較法研究所嘱託研究員）

- 第4主題「最近の憲法改正の動向」

発表者：金浹謙教授（東国大学法科大学）

第5回 2017年日韓サイバー法学会国際学術大会

[東京：専修大学神田5号館571教室]

メインテーマ 第4次産業革命に伴うサイバー法学の課題

- 第1主題「株式の高速取引と法規制」

発表者：澤山裕文（専修大学大学院任期制助手）

- 第2主題「第4次産業改革に対備した韓国の現行電子文書法概観」

発表者：崔鎬雄弁護士

- 第3主題「第4次産業革命時代における犯罪予防および情報人権保護のための法的考察—事物インターネット（IOT）を中心として—」

発表者：李準馥教授（西京大学）＝白允喆教授（大邱サイバー大学）

第6回 2018年韓日サイバー法学会国際学術大会

[ソウル：KIM&CHANG 法律事務所会議室]

メインテーマ 韓国と日本の人権および国家危機対応に関する懸案問題

- 第1主題「インターネットコメントに対する刑法的規律」

発表者：金周範弁護士（韓国観光公社）

- 第2主題「国家危機時における法的対応（例えば韓国の蠟燭デモ等）」

発表者：李準馥教授（西京大学）＝白允喆教授（大邱サイバー大学）

第7回 2019年日韓サイバー法学会国際学術大会

[東京：専修大学神田5号館571教室]

メインテーマ サイバー空間におけるポルノ法規制と職場内ハラスメントの法規制

- 第1主題「リベンジポルノをめぐる問題点」

発表者：岡田好史教授（専修大学法学部）

- 第2主題「『職場内嫌がらせ禁止法』の施行と今後の課題」

発表者：金周範弁護士（韓国観光公社）

- 第3主題「職場における業務上の威力による性犯罪に対する法的規制」

発表者：崔鎬雄弁護士

第8回 2021年韓日サイバー法学会国際学術大会

[オンライン：DUKSU LAW OFFICE]

メインテーマ グローバル パンデミック時代における刑事法的課題

- 第1主題「インターネット上の名誉毀損, 侮辱に対する日本での法改正の動向」

発表者：岡田好史教授（専修大学法学部）

- 第2主題「ボイスフィッシング詐欺に関する研究—貧しい人々だけが残されている現実について—」

発表者：崔鎬雄弁護士（法務法人DUKSU）

第9回 2022年日韓サイバー法学会国際学術大会

[オンライン：KIM&CHANG 法律事務所]

メインテーマ グローバル知的時代における知的財産権保護のための刑事法の役割

- 第1主題「インターネット上の海賊版対策のための著作権法上の罰則規定の

改正について」

発表者：岡田好史教授（専修大学法学部）

- 第2主題「著作権侵害関連 AI（人工知能）の刑法上の責任能力及び自由意思に関する考察」

発表者：金蹈晃教授（檀国大学法学研究所）

- 第3主題「サイバー犯罪の進化と対策」

発表者：金周範弁護士（韓国観光公社）

第10回 2023年日韓サイバー法学会国際学術大会

[東京：専修大学神田7号館731教室]

メインテーマ 複雑化する現代社会における刑事法の役割

- 第1主題「日本における最近の刑法改正について—拘禁刑の創設，刑の執行猶予制度の拡大を中心として—」

発表者：渡邊一弘教授（専修大学法学部）

- 第2主題「2020年麻薬類犯罪白書から見た現状と青少年麻薬類犯罪増加の考察」

発表者：崔鎬雄弁護士（法務法人DOKUSU）

- 第3主題「韓国におけるCyberterとHacking」

発表者：鄭成範教授（大邱サイバー大行政学科）

5 日韓サイバー法学会を2013年に立ち上げて以来、真摯な学術交流を続け、2023年度の第10回国際学術大会は記念すべき節目の大会となった。ボランティア精神と信義を基本として、日韓の学術交流を継続的に行い、研究の輪を広げることができた。国際学術大会におけるサイバー法、サイバー犯罪等に関する日韓の先端研究の発表は、比較法的知見を得るだけでなく、実務上の問題解決の視点を広げるものであった。コロナ禍にあっても、日韓サイバー法学会の活動が中断されることなく維持できたことは、メンバーの日頃の信頼関係と学の継承に対する熱意の賜である。既に白髪となった身ではあるが、日韓サイバー法学会が次世代に継承され、グローバルな発展を遂げるよう尽力したいと考えている。